F2-43

岐阜県恵那市大井町における生活領域と地域資源に関する考察
—（その１）土々ヶ根・岡瀬沢地区住民の生活領域について—
A Consideration about Life Field and Local Resources in Oi-cho of Ena City,Gifu Prefecture
(Part1)　About life field of local people in Dodogane and Okasezawa areas

○井出純一[1]，横内憲久[2]，岡田智秀[2]，押田佳子[2]，石原英樹[3]，大滝隆典[3]，泉直輝[3]
*Junichi Ide[1], Norihisa Yokouchi[2], Tomohide Okada[2], Keiko Oshida[2],
Hideki Ishihara[3], Takanori Otaki[3], Naoki Izumi[3]

Abstract: This study aim is to clarify attractive local resources and their characters in Dodogane and Okasezawa areas of Oi-cho, Ena City. We held a workshop for the local people. As a result, we clarified the life field of local people in this district.

１．はじめに—岐阜県恵那市の南部に位置する大井町では，恵那市景観計画（2012 年３月策定）の方針にある地域別景観計画の策定に向け，現在，筆者らの参画のもと，景観まちづくり活動を進めている．これまでの筆者らの先行研究では，この大井町の地域資源として，北端に位置する恵那峡の眺望とともに，南部の中山道大井宿の歴史的町並みが広く認知されているのに対し，地区中央部にあっては，河川や農地および樹林地などが広がる豊かな起伏を持った地域ながらも，その魅力や地域構造について解明されていない実態を捉えた[1]．特に，近年では，この地域に広がる白地地域への住宅進出や，リニア中央新幹線整備とそれに伴う建設道路整備が進められつつあり，これらの影響によって，上述したような地域的魅力が損なわれてしまうことが懸念される．したがって，当地域の魅力的地域資源を地域住民が再確認すると同時に，新たな地域資源の発掘などを通して，当地域ならではの景観保全・創造策を検討することが急務といえる．

２．研究目的—以上をふまえ，本研究では，岐阜県恵那市大井町の中央部に位置する土々ヶ根・岡瀬沢地区を対象（Figure１）とし，その地域住民の視点から当地区における魅力的地域資源とその特徴を捉えるとともに，現状の景観的課題について明らかにすることを目的とする．

３．研究方法—本研究では地域住民の視点を重視するため，特に地域住民にとって身近な生活領域と魅力的地域資源との関係を捉えることとする．このため，土々ヶ根・岡瀬沢地区景観まちづくりワークショップ（Table１）（以下，WS）を開催し，住民の生活領域の把握に適している「圏域図示法」を用いた集合調査※1を通じて，Table２に示す取り組みを展開する．本稿では地域住民の当地区に対する認識を捉えるため，WS で対象としたい範囲（以下「WS 対象範囲」）と日常の生活領域（以下「生活領域」）を考察する．

４．結果および考察—WS 参加者により「WS 対象範囲」として範囲付けされた領域の重ね合わせ図を Figure２に，参加者ごとのその範囲付けの理由を Table３に示す．同様に，参加者各々の「生活領域」の重ね合わせ図を Figure３に，参加者ごとのその範囲付けの理由を Table４に示す．

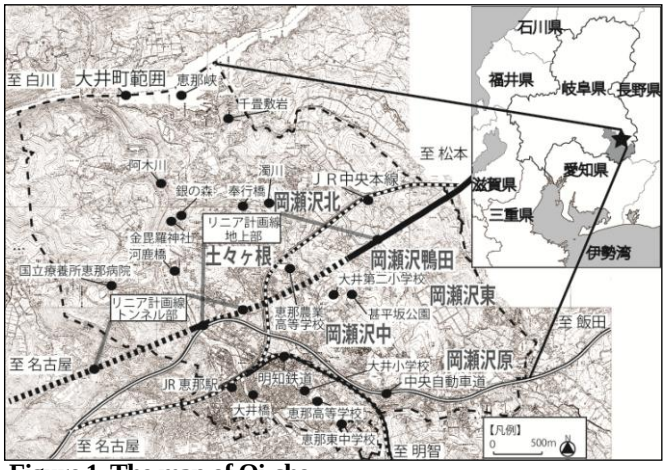

Figure 1. The map of Oi-cho

Table1. The outline of workshop

岐阜県恵那市大井町土々ヶ根・岡瀬沢地区景観まちづくりワークショップ プログラム			
実施日時：8 月 31 日(土)15:00～18:00，開催場所:恵那市消防本部 参加者：大井地域協議会会長をはじめとする地元住民 12 名			
15:00	あいさつ	16:35	①自分たちの生活領域内外の魅力と課題について
15:05	本日の趣旨説明	17:25	②グループ内発表
15:15	本日のルート説明	17:40	③グループ内での意見のまとめ
15:20	まち歩き（車を使用）	17:45	全体発表
16:20	グループディスカッション 「自分たちが思う生活領域内外の大切なもの」	18:00	講評+感想シート記入
		18:15	解散

Table 2. The method of study

調査内容	調査内容	分析内容
ワークショップ形式による集合調査	①WS で対象としたい範囲 ②生活領域の範囲 ③好ましい視点場とその視対象 ④好ましくない視点場とその視対象	その１ ①WS 検討対象地および生活領域の範囲を回答者の範囲づけ理由から分析 ②生活領域の 重ねあわせ図から見る当地域の特徴把握 その２ ③生活領域における視対象と視点場の特徴把握 ④当地域における課題点の考察

１：日大理工・院・不動産　２：日大理工・教員・まち　３：日大理工・学部・交通

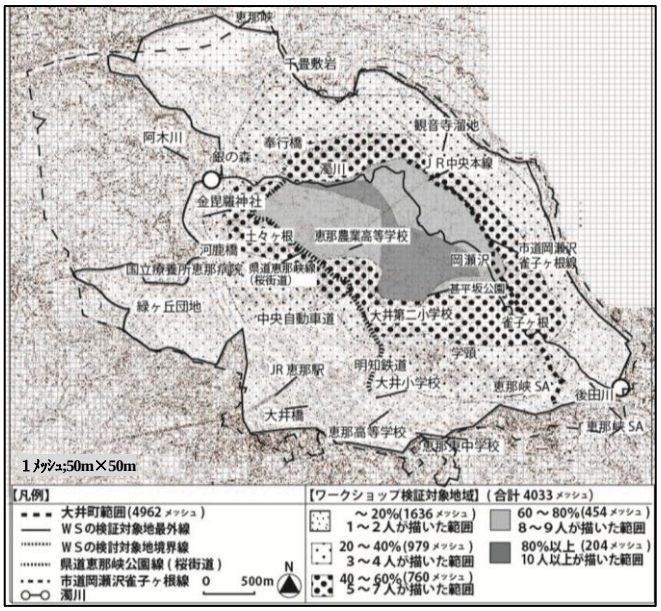

Figure2.The map of workshop area

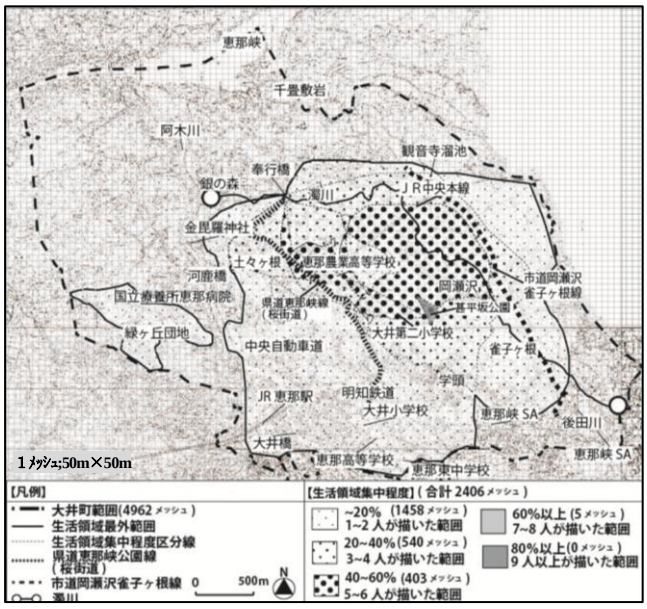

Figure 3. The map of life field area

Table3.The list of reason to workshop area

	WS 対象地として範囲づけた理由 (Figure2 と対応)	行政界・地区範囲	交流がある	道路の存在	利用検討	領域規模（メッシュ）
A	旧岡瀬沢は国道19号～恵那峡近くまであった	○				3221
B	岡瀬沢は昔からの繋がりが強く交流も多い		○			1472
C	北は恵那峡，南は中央道まで．東は市境，西は恵那峡線まで	○		○		2842
D	昔は恵那総合庁舎から恵那峡まで現在は5つの繋がりがある範囲	○				990
E	－					－
F	中央西線，中央道北側，阿木川東側地区			○		1013
G	－					872
H	行政区域に近いから．普段の行動範囲に近いから．	○				1043
I	大井町 14 地区の区割り範囲内だと思った	○				1460
J	常に交流のあるゾーン		○			756
K	日常的に行き来がある．恵那峡の景観を活かす． 濁川とその流域を活かす．		○		○	1006
L	まだ未開発の土地があり，新しい住宅地がつくれる				○	2223
	合計(人)	5	3	2	2	

Table4. The list of reason to life filed area

	生活領域として範囲づけた理由 (Figure3 と対応)	散歩	交流がある	日常の生活（買い物・通勤）	自治会の範囲	領域規模（メッシュ）
A	買い物や散歩に行く範囲	○		○		2026
B	犬の行動場所，老人クラブの交流場所	○	○			753
C	通勤の際毎日目にする風景．			○		697
D	岡瀬沢地区5自治会の付き合い．神社関係等		○			569
E	散歩道がある．	○				101
F	自宅を含む隣接自治会の関係		○			70
G	町内の付き合い，日常の散歩ルート病院にかかりにいく	○		○		148
H	日常の行動範囲だから．近所付き合いがあるから．		○	○		412
I	普段の散歩の場所もあり，用事の際， 自家用車で通っている場所もある．		○			1401
J	自治会内				○	27
K	日常の散歩ルートだから	○				365
L	日常の散歩ルートだから	○				195
	合計(人)	6	5	4	1	

（１）「WS 対象範囲」—Figure２より４割以上で重なる領域の分布をみると，北側は濁川対岸の住宅地まで，西側は県道恵那峡公園線（桜街道）周辺部，東側は市道岡瀬沢雀子ヶ根線周辺部，そして南側については恵那サービスエリアに接続する市道周辺部（岡瀬沢原地区）で境界づけられていることがわかる．これより，参加者はおおむね大井町の高台部分を中心とし，濁川周辺と岡瀬沢地区の農地といった一部の低地部を含めて WS を展開したいとする一方，大井町を象徴する大井宿までは含めず，それとは独立して当地区を検討したいとする意識が伺える．この点に関し，範囲付け理由（Table３）をみても「行政界・地区範囲」によるものが最も多く，「土々ヶ根」や「岡瀬沢」という字（あざ）の範囲を意識している様子が伺える．

（２）「生活領域」—Figure３より，４割以上の領域の分布をみると，東西方向は「WS 対象範囲」と同様の傾向がみられるのに対して，北側の濁川対岸や南側の岡瀬沢原までは含まれない分だけ領域が小さく捉えられていることがわかる．さらに小規模ながら６割以上の領域をみると，その周辺には「大井第二小学校」や「甚平坂公園」が存在する．これら２地点は，当地域で住宅地が分布するエリアとしては比較的標高が高く（標高 350m 程度），「生活領域」の範囲付けの理由（Table４）をみると「散歩」が最も多いことも踏まえると，当地域が広がる俯瞰景や遠景の眺望が視体験できるこれら２地点が，地域住民の生活領域の中心部となる可能性があると考えられる．つまり，大井町において，JR 恵那駅や大井宿を有する中心市街地とは異なり，拠点に乏しいとされる当地区であるが，「大井第二小学校」と「甚平坂公園」の周辺部が生活領域の中心部となる可能性が捉えられた．

５．補注

※１集合調査:調査対象者に集まってもらい，その場で質問用紙を配布し，調査員が調査の趣旨，回答の仕方などについて全体に説明したうえで，対象者に自ら回答を記入してもらう方法[2].

６．参考文献

[１] 井出純一,横内憲久,岡田智秀,押田佳子:「岐阜県恵那市大井町地区の景観計画策定に向けた地域資源に関する考察」,土木学会土木計画学研究発表会（CD-R）2013.6

[２] 日本建築学会編:「建築・都市計画のための調査分析方法」,p.47,井上書院 1990.7